

17日目 四日市 -> 石薬師 -> 庄野 -> 亀山 -> 関

17日目は11月7日(日)、四日市駅前に駐車して電車で近鉄内部線追分駅に行き、7時30分に旧東海道をスタート、曇り。 本日の早朝の温度は10度、さほど寒くない。旅のお供のFMは電波が弱く、ミュージックプレイヤーに切り替え、最初の曲はラテン、ザビアクガートのビギンザビギンでビギン。

内部(うつべ)川と三重

内部川の白い鳥



追分駅を出たところから旧東海道、古い寺や神社をパスして歩いていると駐車場の角に歌碑があり、彫られた文字は読めないので取りあえず写真を撮り、インターネットで調べたが歌の内容も作者も不明、ガイドブックにも単に歌碑とあるのみ。このあたりの地名は小古曽、しかし采女xxの店名が多く、江戸時代には采女村だったらしい、何となくロマンチックな名前。旧東海道は内部川にぶつかり、左折して国道1号線に架かる内部橋を渡る。橋のもとに内部川の由来が書かれていて、内部川は昔は三重川と言い、万葉集にも詠われているとのこと。

既に渡った川の中にも三重川はあったと考え、一体その三重とは何だろうと気になり、インターネットで調べた。最近、旅先で気になったことを後でインターネットで調べる楽しみが癖になってきている。インターネットには『古事記』には、倭健命(やまとたけるのみこと)は東国平定の長い戦からの帰途、鈴鹿の熊褒野(のぼの)でなくなったと記されています。桑名郡尾津の浜から熊褒野へ向かう途中、しだいに弱ってきた命は「わが足三重のまかりなして、いと疲れたり」と語り、以後その地を三重と呼んだということです」とある。「三重のまかりなして」の意味は分からないが、疲れて足が重くなったと想像する。誰か分かる人がいたら教えて下さい。内部川には白い鳥が1羽、川の中にたたずんでいた。

杖衝坂(つえつきざか)

旧東海道は平地から山に差し掛かり、最初は緩やかで、すぐに急な坂となって、有名な杖衝坂。松尾芭蕉がこの坂で落馬し「徒歩ならば杖つき坂を落馬かな」との季語無しの句を詠んで有名になったとのこと。

下から見た杖つき坂



杖つき坂碑



芭蕉句碑



日本武尊が疲れてこの坂を杖をついて歩いたことが杖つき坂の名前の由来。坂自身は急ではあるが5分も掛からず、25番目の日坂宿ほどの勾配でもなく、それ程の坂とも思えない。もっとも今は舗装してあって滑り止めがついており、昔の地道では滑りやすく杖が必要だったのかもしれない。

血塚社



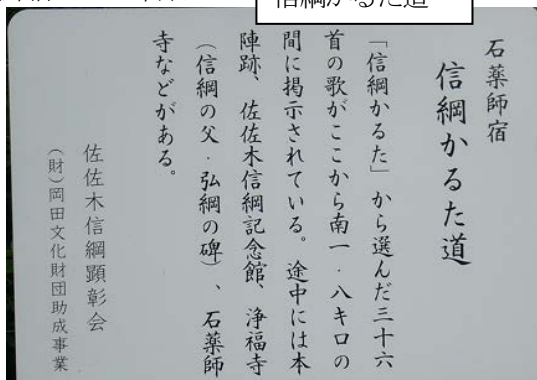
不機嫌な顔をした猫



坂の上には「血塚社」なるおどろおどろしい名前の神社がある。日本武尊がこの坂で怪我をして足から流れ出た血を封じたところだという。神社の前で道の真ん中に猫が一匹うずくまっていて、近づいてもこちらを睨み付けて動かず、敬意を表して道の端を歩く。

石薬師宿 44番目

信綱かるた道



国道1号線から離れたり、合流したりして、30分程歩き、行政的には鈴鹿市となり、「自由が丘」の交差点を過ぎて右に曲がると次の宿場である石薬師となる。ここは歌人の佐々木信綱の生家のあるところとすることで、信綱の歌を36首選んで通りに掲示し、「信綱かるた道」が出来ている。その36首を殆ど撮影した。

宿場には古い民家が多いが、中程に大きな旧家があり、そこが本陣跡、建物自体は明治に立て替えられたもの。

小沢本陣跡



佐々信綱生家

その先に佐々木信綱の生家がある。
36首の歌の中から、下の写真は気に入った2首



ゆく秋の
大和の国の薬師寺の
塔の上なる
一ひらの雲

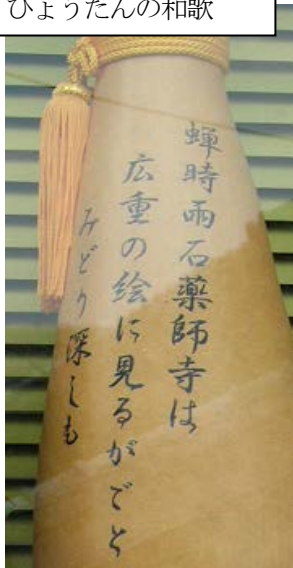
やま百合の
幾千の花を折りあつめ
あつめし中に
一夜寝てしが



かるた道の歌だけではない。民家の出窓にひょうたんが飾ってあり、そのひょうたんに歌が書かれていてしゃれている。この蝉時雨・・・も信綱。

出窓のひょうたん

ひょうたんの和歌



石薬師の名前は、宿場のはずれにある石薬師寺から来ている。石薬師寺は樹木の多い、小さな寺で西行の歌碑を見付けた。他にも、芭蕉や一休禅師の歌碑もあるらしいが、西行だけで他は割愛。

石薬師寺の山門



しばの庵に
夜よる梅の匂ひきて
やさしき方もある
住ひかな
西行

御曹子社と逆桜

御曹子社



石薬師寺のすぐ先の曲がり角に御曹子社なる神社への矢印があり、寄り道。御曹子とは蒲冠者範頼(かばのかんじゃのりより)のこと。

そんな人物を覚えていますか。蒲冠者範頼とは源範頼、源義朝の6男で源頼朝の弟、義経の兄。義経同様、兄頼朝の挙兵に加わり、源氏の大將の1人として、義経程の華やかさは無いが、平家や木曾義仲を攻めた。義経よりは長生きしたが、最後は頼朝から陰謀の疑いをかけられ殺される。インターネットでは、福井で生き延びたとの説も見付けた。その範頼を祭っているのが御曹子社で武道と学問の神様とのこと。神社の中には稚拙な馬の模型を入れた小屋があったが、後で調べると神馬と厩舎とのこと、大変失礼をしました。

逆桜



その神社から50m程はなれたところに県の天然記念物の蒲桜があり、範頼が平家追討の途中、石薬師寺で戦勝を祈願し、鞭にしていた桜の枝を地面に逆さに突き刺したのが芽を出し、この桜になり俗名「逆桜」。本当であれば樹齢900年? ヤマザクラの変種で、珍しい種類と書いてあった。咲いているところを見たい。

庄野宿 45番目

旧小林家住宅



石薬師を出て国道1号線の脇の田圃の中の道を歩き、又、国道1号線に戻り、30分すると次の庄野宿となる。古い民家がチラホラと続き、旧小林家住宅、庄野宿資料館、見学無料と書いてあったので足を止めて見学。つい最近まで人が住んでいた江戸末期の町人宅が、市に寄付され、観光用に整備されているもので、家自体は旅籠と同様の構造。

一部屋に江戸時代の高札が何枚保存されており、書かれた文字が鮮やかに浮き出ているのにびっくりした。

高札は高札場に掛けられる掲示板で 1m x 1.5m 程の分厚い一枚の木の板に筆で訓示や注意などの事項を書いたものである。こんな毛筆で書かれた文字を浮き彫りにするのはどんな技術なのかと説明員に尋ねたところ、浮き彫りではなく、良い墨で木の板に書かれた文字は墨の化学作用で変化せず、書かれなかった部分は長い年月で退化し、墨の黒色は消えても字体は残り、結果的に浮き彫りと同じになるとのこと。へえー、墨にはそんな作用があるのかと感心した。奈良には墨専門の店が何軒かあり、その奈良から来たと話したら、説明員(私よりは年配のご婦人)が来月は唐招提寺と薬師寺を見に行くとのこと、奈良の話で盛り上がってしまった。その高札の写真を何枚も撮ったが薄暗い部屋でフラッシュをたいても浮き彫りの字がうまく撮れたものは1枚もなく、この場に写真で報告できないのは残念。

スダジイと女人堤防

庄野宿自体は小さな宿場で、そのはずれに川俣神社があり、そのスダジイ(シイの木)は推定樹齢 300 年、高さ 11m、幹周り 5m の巨木だった、久しぶりに巨木オタクの M さんに報告できる木にめぐりあった。その川俣神社の先に女人堤防の石碑がある。「この辺りは安楽川と鈴鹿川の落ち合うところで、たびたび水害があった。人々は水害に悩まされていた為、築堤を神戸藩に申し出たが許可がでなかった。そのため、女であれば許可がなくても罪が軽くなるだろうと、女達で築いた。いったん捕らえられたものの、その後許され労をねぎらわれた。堤防を作るのに 6 年の歳月がかかった。」とのことを記念したもの。

スダジイ(シオジイを連想してしまう)



女人堤防碑と道標



上の女人堤防の写真で、左にあるのが石の道標で、これより東神戸領とある。その先に安楽川があり、川原では少年野球の練習中、橋の下の日陰でママさん達がバーベキューの準備をしているのを見て和泉橋を渡る。旧東海道沿いの民家の板塀にマークが沢山、手で書いた様に見えるが何なんだこれは?

民家と板塀



板塀の拡大



亀の出迎え

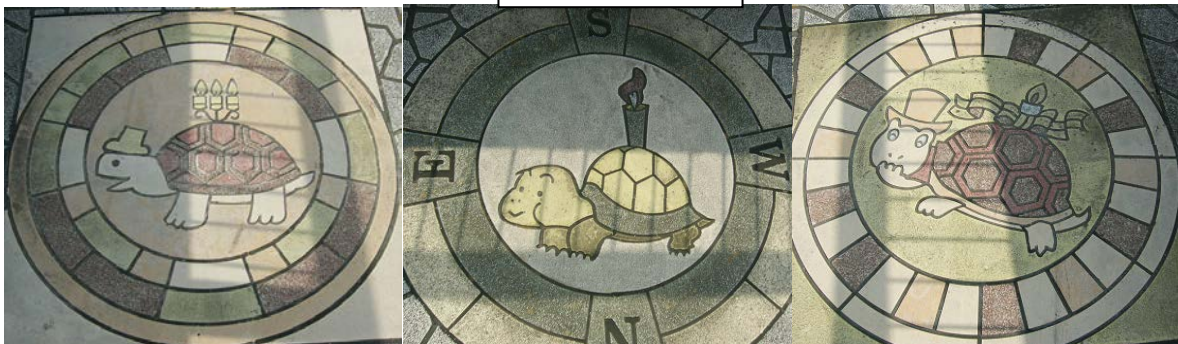
旧井田川小学校跡碑
と二宮金次郎像



安楽川を越えて暫く歩くと JR 井田川駅の前に亀山宿の案内図が出ていて亀山に到着、と言っても宿場そのものはまだまだ先、案内図の横に旧井田川小学校跡の石碑があり、その横に懐かしい薪を背負った二宮金次郎像、小学校が存在していたことの象徴として二宮金次郎像のみとはちよっと寂しい気もするが。ベンチが置いてあったので、一休み。時刻は正午前、そろそろ昼飯時、と言っても食事の出来る場所は見当たらない、亀山に行けば何かあるさ、とウォーキングを再開。

旧東海道は国道 1 号線を横断するが、その横断陸橋の上で、亀がお出迎え。亀山は全国 1 のロウソクの産地、そのロウソクを背中に立てた亀のタイル絵が 3 枚、陸橋の上にあった。何だか楽しくなる絵。

亀さんの絵 3 題



亀山宿 46 番目

旧東海道は郊外の住宅地の中となり、30 分程歩くと、商店、と言っても殆どが休日閉店、が増えてきて亀山宿に到着、と言っても宿場の遺構は何も無し、その代わりに家の前に江戸時代にその場所に何があったのかを示す看板が掛かっている。家並みの上に天守閣が見えたと思ったら、現代建築の呉服屋さん(多分)。亀山は宿場町と言うよりも城下町、街並みの雰囲気は奈良の大和郡山に似ている。右に左に曲がって通り抜けると池があって、亀山城の石垣と建物が見え、古い家並みが現れ、このあたりが江戸時代には中心地。旧家が何軒か並び、武家屋敷(これは復元)もある。

江戸時代に何があったのかを示す看板



呉服屋さんの天守閣



亀山の旧家



亀山の武家屋敷



亀山城の石垣と多聞櫓



古い民家を改造したレストランがあり、既に1時を過ぎており、聞けば空いていて待ち時間無しとのことでそこで昼食、若い女性グループやカップルの客が多い。 昼食メニューはなんと「未来ランチ」でそれのみ、注文して出てきたのは雑穀・野菜・茸の料理、講釈付で料理が出てご飯は玄米と雑穀のハーフアンドハーフ、デザートはサツマイモのスープみたいなもの、1500円也。 不味いものではないが、もう一度食べたいとも思わない、やはり未来よりも現在が大事。 昼食後に亀山城に入城、残っている建物は多聞櫓のみ、城の中は公園になっていて、機関車と小型飛行機が置いてあった。

亀山城公園の飛行機



名阪国道

亀山宿から次の関宿までは6Km程、関への道を急ぐ。 道は町並みを外れいつしか国道1号線と平行。 亀山へは何度も来たことがあり、亀山駅で降りてバスかタクシーで工場へ行くか、或いは車で名阪国道を走って亀山で降りて工場へ行くか、で亀山市内など一度も見たことがない。

旧東海道から眺める名阪国道



今日見た亀山は今までの印象と全く異なる町だった。 駅から工場まで行く道の右側は山になっていたが、その山の上に亀山城と城下町があったのだ。

名阪のガード下、側面に 53 次の壁画があり、横には駕籠かきの絵



旧東海道は川沿いとなり、桜並木の道となる。遠くに国道1号線の交差点、何度も来て見覚えが有る、が見え、やがてその名阪の下をくぐる。名阪のガードには東海道53次の壁画が描かれている。車の旅行も嫌いではないが、歩くのはいいなあとしみじみ思う。

関の小万

田んぼの中を1時間程歩いて関宿の入り口に到着、入口に「関の小萬のもたれ松」がある。関の小萬とは何者か、インターネットで調べると



「第十代将軍家治の時代、関宿の山田屋に止宿した身重の女が、玉のような一人の女の子を産んだ。しかし母親は難産のため助からなかった。この母親は九州久留米藩二十一万石、有馬家の家臣で牧藤左衛門の妻だった。藤左衛門はふとしたことから、同僚の小野元成と口論となり、あげくのはてに殺されてしまった。その仇敵の小野元成は小林軍太夫と名前を変え、亀山藩に仕えているのが判明した。そこで身重の身体もかえりみず、みずから夫の仇討ちにかけてきたのだが、関まで来て病気に倒れてしまったのである。

宿の主人庄兵衛は苦しい息の下から聞いた身の上話にうたれ、その義侠心から小万に仇討ちの本懐を遂げさせるまで養育しようと決心した。そして成長した小万に亀山の剣術師範、榊原権八郎の道場で修業させた。事情を知った師範も小万の意気にうたれ、くる日もくる日も必殺の「突き」の一手を教えた。やがて六年の歳月が経過した。『もう大丈夫、小万、やってみよ』

師範に激励され、その翌日、亀山城下の辻で見事、小林軍太夫を討ったのである。天明三年(1783)八月、十八才のときであった。

小万は絶世の美人、仇討ちに成功した女性という物珍しさもあり、街道を上り下りする旅人は多くが心引かれて山田屋に宿泊し、そのため大いに宿は繁盛したという。享和三年(1803)三十八才で亡くなっている。関宿の東の入り口に「小万のもたれ松」というのがある。剣術修行のため亀山に通うとき、土地の無頼漢のいたずらを逃れるため、この松の影に隠れたという。毎日亀山に通ったのは剣術を習うためもあるが、敵の動静を監視するためでもあったらしい。」

この仇討ちは有名となり、鈴鹿馬子唄にも歌われている。もっとも、更にインターネットで調べると仇討ちの前から馬子唄の歌詞は存在しており、「馬子唄の小万と仇討ちの小万は別人か?」とも書かれている。

関宿 47 番目

関宿の関は鈴鹿の関の関で、古代から関が置かれていた。その関宿に足を踏み入れて驚いた、両サイドの家が殆ど江戸時代の宿場の建物、それが延々と続く。今までに46の宿場を見てきたことになるし、住んでいる奈良にも古い住宅で有名な奈良町や今井町があるが、関の方がはるかに多い。53次の宿場の中で唯一「国の重要伝統的建造物群保存地区」に指定されているのもうなずける。

ガイドブックには計223戸の伝統的建物があると書かれている。なにしろ地区内は7割が戦前迄の建物とのこと。電柱が全く無いのもいい。



延々と続く古い家、電柱が無い



古い土蔵



2階の窓の棧が縦横になっているのが面白い



2階の窓の棧は漆喰



2階の窓は黒く塗られた漆喰

余りにも被写体としての興味深い旧家が多く、どれを載せるか迷ってしまった。

3時を過ぎると、日は西に傾き、もうじき夕暮れの雰囲気となり、関宿を半分見たところで最寄の駅へ急ぎ、JR 関西本線関駅に3時半に到着するが、電車は5分前に出ていて、しかも1時間に一本、まったく「本線」だというのに。 関駅で1時間待ち。

マンホールの蓋

庄野(鈴鹿市)マンホール



亀山のマンホールの蓋



17日目は4.5万歩、約30Km。

関駅で乗車、亀山で乗り換えて四日市で下車、駐車場に置いてあった車で桜井の家へ午後7時に戻る、走行距離は往復約190Km。

次回は 関 -> 坂下 -> 土山 -> 水口

